

育児情報源と育児情報獲得状況に関する研究

平松紀代子（滋賀大学）

本研究ではさまざまな子育て支援のなかでも社会的整備が可能な情報に注目した。1980年代から親となる前に乳幼児と触れ合ったり、世話する経験（育児経験）がない親の増加が指摘されていたが、こうした経験の欠如ゆえに子どもの発育・成長の見通しを持たず、育児困難や自分の育児に自信が持てない状況が生じている。そこで知識や経験がない親でも適切な育児情報を得やすい育児環境に求められる要件を探ろうとした。

【研究概要】

親となる前の経験、育児情報源と育児情報獲得状況についてアンケート調査を実施した。調査はNTTコムオンライン社を通じて「第1子が0～2歳である父親・母親」512名を対象として自由意志にもとづいて2024年6月5日～11日に行われた（本研究はJPSS（基盤研究C：課題番号23K02008）の助成を受けて実施された）。

【調査結果】

利用する育児情報源 利用する主要な情報源を複数回答でたずねたところ、男女ともにパートナー、両親、友人・知人といった身近な人的情報源、次いでWEB・SNSを選択していた。父親は義父母、母親は友人・知人、きょうだい、子育て仲間、保育者、保健師を有意に多く選択していた。子育て情報、専門的情報、子育て支援を得るための情報に関する9項目について、利用の優先順位が高い第1～3情報源をたずねたところ、父親の主な情報源はパートナーであったが、母親はパートナー、両親、WEB・SNSを情報源として主体的に情報収集していることが示された。また男女ともにいずれの情報についても「求めている」との回答が約3割みられた。

属性と親となる前の経験を説明変数、育児情報源利用の有無を説明変数として2項ロジスティック回帰分析を試みたところ、年長の男女がWEB・SNSを利用、年長の母親は保育者、看護師、子育てアプリを利用する傾向がみられた。親となる前に接触経験がよくあった母親は保育者、看護師といった専門性のある人的情報源、父親はWEB・SNSを選択する傾向がみられた。ところが育児経験がよくあった男女はWEB・SNS、数回あった母親は子育てアプリといった物的情報源を利用しない傾向がみられた。

育児情報獲得状況 育児情報のうち心配なことを除いた8項目について認知度を4件法でたずねたところ、育児情報獲得状況は7～8割が肯定的で、一元配置の分散分析を試みたところ母親の方が有意に獲得状況がよかった。しかし科学的エビデンスに基づき可変的側面をもつ専門的情報として、乳児にはちみつを与えることやうつ伏せ寝についてたずねたところ、その危険性を知らない親が2～3割みられた。

属性と親となる前の経験を説明変数、育児情報獲得状況および情報の正誤を説明変数として2項ロジスティック回帰分析したところ、母親では属性による有意差はなかったが、若い父親は育て方、抱っことおんぶ、発育・成長、離乳食の4項目の獲得状況が有意によかった。また親となる前に接触経験があった母親は発育・成長、病気・予防接種、子育てひろば、ファミリーサポートの獲得状況がよかった。父親は接触経験では有意差はなかったが、育児経験がよくあると抱っことおんぶ、発育・成長の情報獲得状況がよかった。利用する情報源に注目すると、看護師、子育てアプリを情報源とする母親はファミリーサポートの情報獲得状況がよかった。父親はファミリーサポート以外の項目で有意差がみられ、ひろばスタッフ、WEB・SNS、保育者を選択した父親は情報獲得状況がよかったが、子育て仲間がいても情報獲得状況は否定的であった。はちみつやうつ伏せ寝については、育児経験があった親の方が情報を誤認している傾向が確認された。

【考察】

育児に際して利用する情報源は従来と変わらず身近な人的情報源であったが、WEB・SNSは汎用性が高く利用しやすい情報源であることが示され、基本的情報とくに子育て支援情報の発信に有効であることが示された。しかし育児経験があった人はWEB・SNSより、多様な子どもの育ちに寄り添ってくれる人的情報源との繋がりを求めていたことから、専門性のある人的情報源との繋がりの促進が求められている。育児情報獲得状況は概ね肯定的であったが、乳児の生命に関わる情報に関する誤認を解消することが喫緊の課題といえる。

キーワード：育児情報、育児情報源、育児情報獲得状況